

外側半月後節部横断裂の縫合術後 MRI 上の逸脱

○田淵 幸祐^(MD) (たぶち こうすけ)¹⁾, 副島 崇^(MD) ²⁾, 野口 幸志^(MD) ¹⁾,
木内 正太郎^(MD) ¹⁾, 山下 明浩^(MD) ¹⁾

¹⁾ 久留米大学医療センター 整形外科

²⁾ 久留米大学 人間健康学部

【目的】

半月横断裂や後根損傷などでは半月は大きく逸脱する。今発表では外側半月後節部横断裂に対して縫合を施行し、術前・術後の MRI 上の半月逸脱を評価した。

【対象・方法】

対象は外側半月後節部横断裂損傷患者に対して Meniscal Viper を用いて All-Inside repair を施行した 7 例 (手術時年齢 24.5 歳)。全例 ACL 損傷を合併しており同時に再建も施行した。MRI 上の外側半月の逸脱 (逸脱量・逸脱率・関節被覆率) を術前・術後 (6 ヶ月以降) で比較した。また外側半月損傷のない ACL 損傷患者または内側半月損傷患者を正常群とし、正常群とも比較した。

【結果】

半月逸脱量は術前 2.7mm, 術後 1.7mm, 正常群 0.7mm であった。半月逸脱率は術前 31.6%, 術後 23.2%, 正常群 6.8% であった。逸脱量・逸脱率は術後有意に改善したが、尚も正常群とも有意差を認めず。関節被覆率は術前 23.3%, 術後 21.5%, 正常群 32.2% であり術前・術後に有意差はなく、正常群とも有意差を認めず。

【考察】

術前の半月逸脱は縫合により有意に改善を認め一定の効果をあげたが、正常群には及ばなかった。術中は修復ができたように見えても荷重下での負荷を支えきれない可能性があり、さらに強固な縫合法や荷重時期を工夫する必要がある。